

メキシコ日本商工会議所創立60周年記念式典
岩屋外務大臣 祝辞

メキシコ日本商工会議所創立60周年、誠におめでとうございます。日本政府を代表し、心からお祝い申し上げます。また、この機会に、商工会議所のこれまでの功績をたたえ、外務大臣表彰を授与できることを嬉しく思います。

日本とメキシコは、135年以上の外交関係を有する戦略的グローバル・パートナーとして、現在に至るまでの激変する世界情勢の中においても、伝統的な友好関係を維持・強化しております。その中でも非常に重要な柱が、中南米最多の約1,500拠点を有する日系企業の皆様の存在、メキシコ日本商工会議所の皆様の日々の活動に支えられた経済分野です。

1964年、30社で設立されたメキシコ日本商工会議所は、60年の長きにわたりメキシコ経済と共に歩み続け、その時々様々な課題や困難を共に乗り越えつつ、グアナファト支部及びケレタロ支部を含め、会員企業549社を擁する大組織に成長しました。日系企業の長期的視野に基づく投資は、多くの現地雇用を生み出し、人材育成や技術移転を通じて、メキシコ社会の発展に大きく貢献し、高い評価を得ています。このような努力に心からの敬意を表します。

また、両国の経済関係深化の大きな契機となった日メキシコEPAの交渉にあっても、商工会議所の皆様から多くの貴重な助言を頂きました。その成果は大きく、日本にとっての初の農産品分野も含むEPAが締結され、進出日系企業拠点数は約5倍、両国間の貿易総額は3倍以上に拡大しました。加えて、2018年にはCPTPPも発効し、両国間の経済関係を更に強固なものとしています。

さらに、商工会議所の皆様には、子女教育を含む在留邦人や日系社会の活動にも多大な協力を頂いています。両国の友好関係や相互理解の促進にも大きな役割を果たしている、このような日頃からの御支援にも深く御礼申し上げます。

本年10月1日に発足したシェインバウム政権の下で、メキシコは大きな変革の時期を迎えています。米中競争・サプライチェーン再編成に伴い、対米輸出製品の製造拠点としてのメキシコに各国企業の高い関心が注がれる中、本日も、水素関連協力推進のための覚書署名が予定されていると承知しており、商工会議所の努力の積み重ねを心から誇りに思います。

日本政府としても、日メキシコEPAやCPTPPなどの枠組みを活用し、メキシコ新政権との間で良好な関係の維持・強化の取組みを継続し、様々な分野での交流拡大を目指していく所存です。そのためにも、在留邦人の安全対策やビジネス環境整備

などに加えて、2026年のUSMCA見直しも念頭におきながら各種の対話を継続し、日墨経済関係の牽引役である商工会議所と共に、オールジャパンで取り組んでいく所存です。

今後10年、またその先に向けて、商工会議所が更なる経済関係強化に向け活動を続け、日本とメキシコの両国関係が一層発展することを期待します。皆様の御健勝と商工会議所のさらなる御発展を心から祈念し、私の挨拶といたします。

日本国 外務大臣
岩屋毅